

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Relationship between sleep position and otitis media in infants: The Japan Environment and Children's Study.

和文タイトル:

乳幼児の睡眠体位と中耳炎との関係：エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 福島ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Auris Nasus Larynx

年: 2024

DOI: 10.1016/j.anl.2024.08.001

筆頭著者名: 菊地大介

所属 UC 名: 福島ユニットセンター

目的:

中耳炎は乳幼児が罹患しやすい疾患であり、様々なリスク因子が報告されている。乳幼児は長時間の睡眠を要し、睡眠体位と疾病との関連が報告されている。本研究では、睡眠体位と中耳炎との関連を検討することを目的とした。

方法:

エコチル調査の3歳時全固定データを使用し、85,731 人の乳幼児を対象とした。生後6カ月までの中耳炎罹患と生後6か月時点での睡眠体位の関連について多変量解析を行った。さらに、生後6か月で寝返りが出来るか否かで層別解析を行った。

結果:

睡眠体位の割合は仰臥位 75.8%、側臥位 12.8%、腹臥位 8.3%、決まっていない 3.1%であった。腹臥位が他の睡眠体位と比較し中耳炎罹患率が調整オッズ比 1.206(95%信頼区間: 1.038-1.401)と高かった。層別解析でも寝返りが出来るか否かに関わらず、腹臥位が最も中耳炎罹患率が高かった。

考察(研究の限界を含める):

本研究では、エコチル調査における乳幼児の睡眠体位と中耳炎との関連を示唆した。中耳炎のリスク因子として報告されている集団保育、受動喫煙、口蓋裂などの因子を調節してもなお、腹臥位と中耳炎との関連が示唆された。
本研究の限界は、中耳炎罹患の有無は質問票によるものであること、睡眠体位は最も多い体位を選択し複数体位をとる場合、その割合が不明であることなどである。

結論:

本研究では、乳幼児の腹臥位と中耳炎の関連が示唆された。